

症例報告

オシメルチニブ投与後に CEA 低下を示すも増悪した EGFR T790M 変異陽性肺腺癌

尾下 豪人¹, 川崎 広平², 伊藤 徳明¹, 妹尾 美里¹, 船石 邦彦¹, 奥崎 健¹

所属機関：¹ 三原市医師会病院 内科

² 公立みつぎ総合病院 内科

要旨

症例は 68 歳の男性。肺腺癌をゲフィチニブによって治療されたが、腫瘍は再増大した。EGFR の T790M 変異陽性のため、オシメルチニブを開始した。CEA は著明に低下したが、腫瘍は増大し、深部静脈血栓症を合併した。抗凝固療法とオシメルチニブ継続投与を行うも、肺癌は急速に進行し、死亡した。本症例の経過には、腫瘍の heterogeneity や組織学的転化の関与が疑われた。癌の病勢は腫瘍マーカーのみに基づいて評価されるべきではない。

キーワード：癌胎児性抗原、組織学的転化、深部静脈血栓症

Carcinoembryonic antigen (CEA) , Histologic transformation, Deep vein thrombosis (DVT)

短縮タイトル：CEA 低下を示すも増悪した肺腺癌